

Citation: Grusovin MG, Coulthard P, Jourabchian E, Worthington HV, Esposito MAB. Interventions for replacing missing teeth: maintaining and recovering soft tissue health around dental implants. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2002, Issue 3. Art. No.: CD003069. DOI: 10.1002/14651858.CD003069.pub3.
CRG名: Oral Health

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 6 November 2007

Clib issue No.; N/U: 2008 issue 1; -

背景: インプラント周囲において、軟組織の健康回復や維持をするための補助的療法は重要である。これまでにさまざまなメンテナンスレジメンが提案されているが、最も効果的な対処法は不明である。

目的: (1) インプラント周囲軟組織の健康維持、(2) 軟組織の健康回復に関するさまざまな対処法の効果に差がないという帰無仮説を検証すること。

検索戦略: Cochrane Oral Health Group Trials Register、Cochrane Central Register of Controlled Trials (CENTRAL)、MEDLINE、EMBASEを検索した。いくつかの歯科雑誌をハンドサーチした。ランダム化比較試験(RCT)の参考文献をチェックし、ハンドサーチの対象外であった歯科雑誌で関係のあるレビューも抽出した。また、すべてのRCTの著者と55以上の口腔インプラント製造会社にコンタクトを取った。インターネット討論グループにも、未出版や現在進行中のRCTを見つけるためコンタクトをとった。言語規制は適用せず、最新のインターネット検索は2007年6月13日に実施された。

選択基準: インプラント周囲組織の健康回復や維持のための対処法や薬剤を比較したランダム化比較試験。

データ収集と分析: 2人の査読者により、研究方法の質的評価とデータの抽出を個別に2回行った。連続変数アウトカムの結果は加重平均差を用いたランダム効果モデルで、二分変数アウトカムの結果については、95%信頼区間と相対リスクを用いて表現した。

主な結果: 18個のRCTsが同定された。これらの試験のうち、合計238人の患者からの結果を含む9個の試験が選択された。それらの試験の観察期間は、6週から1年であった。各RCTは異なった統合不能な方法でデータがまとめられていたため、メタ分析は行わなかった。リスチリンによる洗口は、プラセボと比較してプラークが54%、出血が34%減少していた。電動・音波歯ブラシと手用歯ブラシを比較した2つの試験によると、多くの患者が音波歯ブラシを好んだが、音波歯ブラシと通常の歯磨きとによる効果には、統計的な有意差はなかった。クロルヘキシジンとヒアルロン酸を用いた歯磨きの間、エッチングジェルによる洗浄と手用の洗浄の間、インプラント体の内部へのクロルヘキシジンの注入と生理的食塩水の注入間、ミノサイクリンの粘膜下投与とクロルヘキシジンゲルの投与間に有意差は認められなかった。フッ化アミン/フッ化スズ(AmF/AnF2)溶液を用いた洗口とクロルヘキシジン溶液を用いた洗口を比較すると、フッ化アミン/フッ化スズは患者から好まれ、味覚の変化も少なかったが、インプラントの失敗や着色指数には有意差が認められなかった。患者自身のクロルヘキシジンによる歯肉縁下内洗浄は、クロルヘキシジンによる洗口より、プラークの付着ならびに歯肉出血が有意に少なかった。しかし、本試験では、クロルヘキシジンの洗口において、その至適濃度よりも低い濃度が用いられていた。

レビューアの結論: インプラント周囲軟組織の健康維持ならびに回復にあたり、信頼できるエビデンスはほとんどなかった。今回取り上げられたRCTでは追跡期間が短かったうえ、症例数も少なかった。長期間のメンテナンスのための効果的なレジメンについても、信頼できるエビデンスはほとんどなかった。しかし、これらの結果を受けて、現在行われているメンテナンスのレジメンが効果的でないと単純に解釈すべきではない。通常の口腔清掃に加えて、リスチリンによる洗口を1日2回30秒間続ければ、インプラント周囲の出血やプラークの減少に効果があるという弱いエビデンスがあった。この領域ではより多くのRCTsが行われるべきである。特に、主要アウトカムを用いた長期間に渡る追跡により、可能性のある差を力強く検出する試験が明らかに必要である。また、そのような研究はCONSORTガイドラインに基づいて報告されるべきである。

ご注意:この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。